

より効果的な吸入薬の患者指導のために
『患者吸入指導テキスト スマホで見られるピットホール』
一般販売開始

株式会社協和企画（代表取締役社長：山田淳史、本社：東京都豊島区）は、6月17日より『患者吸入指導テキスト スマホで見られるピットホール』の販売を開始しましたので、お知らせいたします。

◎定価：本体3,600円＋税 / ◎ISBN：978-4-87794-216-8 / ◎体裁：A4判、本文152ページ

◎発刊の背景

最近、喘息や COPD（慢性閉塞性肺疾患）、インフルエンザウイルス感染症などの吸気疾患に対する薬物療法として吸入薬が用いられるようになりました。吸入薬は錠剤や注射薬などと異なり、気道内の患部に薬剤が直接到達するため全身性の副作用がきわめて少なく、呼吸器疾患の治療には欠かせないものとなり、多くの吸入薬が登場しています。ただし、薬剤を吸い込む専用器具である吸入デバイスには個々に操作の仕方の特徴があるため、吸入薬の種類が拡大したことにより多様性が増して、混乱する患者さんも少なくありません。このような状況で、長年にわたり喘息や COPD の治療にあたり、診療ガイドラインの作成委員でもある大林浩幸先生が、患者指導の際に医師・医療従事者が間違いやすいポイントと患者さんが陥りやすいポイントを『ピットホール』として、書籍と動画で解説する指導書を作成しました。

◎本書の特徴

吸入療法は、的確な薬剤が処方されても「適切な手技操作により吸入する」ことで初めて十分な効果が期待されます。そこで、本書はわが国で流通している吸入薬・吸入デバイスのすべてについて、医師・医療従事者が間違いやすいポイントと患者さんが陥りやすいポイントを『ピットホール』として、その対処法を伝授します。『ピットホール』とは、筆者が指導の際に「誤操作」というネガティブな言葉を避けて、患者さんが容易に克服できる“些細な穴”であるとの前向きなメッセージを込めて名付けています。

本書は、適切な吸入療法のための 5 つのステップを踏まえて構成されています。①吸入療法と従来の内服薬治療との違いを認識すること、②ピットホールが生じる原因は患者さんの側にあることを知ること、③ピットホールを克服する鍵は“よく見て、よく聴き、よく話すこと”にあること、④動画を視聴することで吸入操作の手順を動的な流れで理解すること、⑤より良好なアドヒアランスを維持するためには患者さんへの吸入指導を継続することが重要であること。

特に④は、ピットホールごとに無料で操作手順を動画で視聴できるため、患者さんだけでなく、医師・医療従事者も、手許のスマートフォンで繰り返し見て習得することができるように工夫されています。

※注文は全国の医書取扱書店、また弊社ホームページにて受け付けております。

本リリースに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社協和企画 〒170-8630 東京都豊島区東池袋 3-1-3
担当：提箸（さげはし） e-mail:sage@kk-kyowa.co.jp